

Let's
be making
Story of
hope



私たちは、希望の物語を創り続けるNPOです。



NPO法人MAKE THE HEAVEN

HP : <http://www.make-the-heaven.com/make-the-heaven>
〒651-1145 兵庫県神戸市北区惣山町1丁目14-1 / MAIL : info@maketheheaven.com

NPO法人 MAKE THE HEAVEN 2016年度 年次報告書

希望の物語を創り続けていこう

目次

- 2P 目標
- 4P MAKEとは
- 6P 足跡
- 8P カンボジア
- 14P 植林間伐
- 20P 挑戦
- 26P 感動共有
- 30P 復興
- 36P 活動報告
- 37P サポートのお願い
- 38P 会計



私たちは、希望の物語を創り続けるNPOです。

“Let's keep making a story of hope”

MAKE THE HEAVENの目標は、
一人でも多くの人の心の中に、元気や希望が増えるきっかけを創ることです。
「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」
という思いから、

みんなの「はじめの一步」をサポートし、
行動する人を増やすことによって、
お互いを応援しあい、助けあうのが当たり前になる世の中を創り、
地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やして行きます。

繋がりを大切にして、さまざまな活動を笑い楽しみながら行動することで
「いつの間にか誰かの力になっていた」
そんな新しい常識を創りながら、
一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯して行きます。

MAKE THE HEAVEN

代表挨拶



新しいメイクザヘブンがスタートして1年目
おかげさまで1年目を迎えることができました。

理事長を引き継ぎ、右も左もわからない状態では
ありますが、自分ができるやり方で「きっかけ」
や「はじめの一歩」をこれからも作っていきます。

2月にフィリピン視察に行き、これから動いてい
こうと思った矢先に熊本地震が起こり緊急支援
「め組JAPAN」を出動し、復興支援に取組みさせ
て頂きました。

主にまくらを提供させて頂いたり、仮設住宅に行
き、くまもんカフェとして市民のみなさんと全国
のボランティアのみなさんと交流の場を作らせて
頂きました。

ご支援頂いたみなさん ボランティアに参加して頂
いたみんな 本当にありがとうございました。

め組JAPANは、2017年9月まで熊本を拠点に
地元寄り添いながらできることをさせていただき
ます。

10月には、TEAM A☆H☆Oの挑戦
3200メートルの山を舞台に南米チリ・アタカマ
砂漠マラソン1週間250キロをチームメンバー
10名が全員完走することができ、チーム部門では
優勝をすることができました。

メンバーのみなさんと助け合い、支え合い、認め合い、
信じ合えたからこそ、選手全員が完走することがで
きました。

中国植林では、中国にまた一つ樹を増やすことがで
きました。東北宮城では、どんぐりの苗を作り続け
ています。

12月には、初めての試み香港ビーチクリーンツア
ーを開催。日本から30名が参加しました。香港政
府環境副大臣もご参加いただき、素敵なツアーを企
画することができました。

これからもできることに一歩ずつワクワクの未来を
みなさんと一緒に作っていきます。
どうぞよろしくお願い致します。

理事長

こういちマンモスこと川島孝一

てんつくマンからの挨拶

理念

「一人一人の存在そのものが希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる」
という思いを大事にし、笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける活動をします。

活動概要

MAKE THE HEAVENは、2016年も「笑い楽しみながら希望の物語を創り続ける」をモットーに
活動しました。

●カンボジア支援プロジェクト 「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」

孤児院運営や奨学金サポートなど、カンボジアへの支援を通して、カンボジアと日本の心を繋ぎ、笑顔が増えるた
めの支援を行いました。

*カンボジア支援プロジェクトは2017年度より独立し、新しい団体NPO法人GLOBE JUNGLEとしてカンボジア
支援を継続していきます。

●植林・間伐プロジェクト 「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超え、皆で力を合わせて植
林実践しました。また、東北に緑の防波堤を作るための育苗を行いました。

●挑戦プロジェクト 「TEAM A☆H☆O」

できる、できないではなく、笑い楽しみながら一歩を踏み出すことの大切さを伝えるために、チームメンバー10
名で過酷なアドベンチャーレースに挑戦しました。

●感動共有プロジェクト 「アミーゴ大作戦」

ビーチクリーンアッププロジェクトを通して、繋がりを大切にして、一人では難しいと思うことも、みんなで助け
合って支え合うことで一緒に笑顔を増やし、みんなで喜び合えるきっかけを創りました。

※自然災害などで緊急事態が起きた場合、必要に応じて緊急支援部隊「め組JAPAN」を発足して緊急支援及び復興
支援活動を行います。



組織図

[役員名簿]

理事長	川島 孝一	ロックバンドおかん
理事	勝保 大輔	CHIKAKEN 竹あかり 演出家
理事	池田 親生	CHIKAKEN 竹あかり 演出家
理事	三城 賢士	路上詩人パパラ 笑顔が増える株式会社代表
理事	今井 健太郎	有限会社クラブ・サンクチュアリ代表取締役社長
顧問	軌保 博光	サンクチュアリグループ 監査役・統括経理
監事	二瓶 明	

メイクの足跡 (2004~2016)

2004年
4月

NGO MAKE THE HEAVEN設立

*環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして、世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集まり、NGO MAKE THE HEAVENが誕生しました

8月

カンボジア支援プロジェクト発足

翌年、プノンペンにカンボジア支援プロジェクト事務局を設置
*2016年までに、井戸掘り支援は915基の井戸を届ける事が出来ました。
また、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育見親支援は延べ5,201人の子供達が学校に通えるようになりました。

2005年
4月

植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催

*2016年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、北海道、和歌山、熊本で計25回の植林ツアーを行い、延べ2909人に参加いただき、植林本数は505,560本となりました。

2006年
1月

小豆島にて、げんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢楽」発足

*げんきのたね夢楽は、2011年5月末を持って6年間の活動を終了しました。2011年までに延べ1万人以上の方が参加してくださいました。

2008年
4月

植林プロジェクト→「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」に

植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一元募金プロジェクトを開始
*2016年までに、934人の一元ヒーローが誕生しました。

2009年
11月

映画「107+1～天国は作るもの～Part2」完成/公開

当法人理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1～天国は作るもの～Part2」が完成及び公開
*2014年までに、同映画Part1と合わせて自主上映による観客動員数が約22万人になりました。そして、2015年からはPart1、Part2ともに自主上映を終了し、DVD化して販売しました。
※映画配給、DVD販売元は有限会社クラブ・サンクチュアリ

2010年
4月

間伐プロジェクト開始

*2014年までに静岡、山梨、熊本、奈良、宮城、和歌山で計9回間伐ツアーを行い、延べ492人に参加いただき、800本のスギ、ヒノキを間伐しました。

5月

ロックバンドおかんと専属事務所契約

*2013年4月 大阪城ホールでロックバンドおかん単独公演を実施し、約6千人が来場。大阪城ホールの単独公演成功を持って、MAKE THE HEAVENから独立しました。

8月

NGOから香川県の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証

*現在は、神戸市の特定非営利活動法人(NPO法人)認証済み。

2011年
1月

カンボジアくっくま孤児院運営開始

3月

東日本大震災復興支援プロジェクト「め組JAPAN」発足

*2014年までに延べ2万人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくださいました。

6月

送電線国有化のための署名募集開始

*2012年10月までに179,820名分の署名をいただき、経済産業省に届けました。

8月

疎開プロジェクト洞爺バケーション開催

*2013年までに計3回(毎年夏休み)開催し、延べ337人の親子が参加してくださいました。

2012年
1月

緑の防潮堤プロジェクト「希望の森モリ大作戦～東北植林～」発足

(WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVALとめ組JAPANの共同企画)
*植林実現に向けて、ビニールハウスで約3万本の苗木を育成しています。

2013年
4月

カンボジア学校建設プロジェクト発足

*2016年までに、13の建物(幼小中学校11校と図書館、孤児院を一株ずつ)を建設しました。

2014年
1月

フィリピン支援プロジェクト 「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」発足

*お米やミシンの支援、ボランティアチーム「MY RIDE」の活動支援をしました。

8月

カンボジアの子供達が日本に来る 「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」を開催

*2016年までに6回ツアーを行い、2016年はSpeciaイベントを行いました。

8月

広島土砂災害復興支援「め組JAPAN広島」発足

*2014年8月末から9月末まで活動し、2,500人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくださいました。

11月

フィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施

フィリピンのバロ市で開催されたフィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施
*慰霊祭の会場に1,000本以上の竹あかりを飾りました。

2015年
9月

「1日だけの日本最幸の塾”諸君、狂いたまえ”」を実施

MAKE THE HEAVEN主催イベント「1日だけの日本最幸の塾”諸君、狂いたまえ”」を実施
*約900名の方に参加いただきました。

2016年
4月

新理事長に“川島孝一”が就任

理事長交代に伴い、川島孝一が新理事長に就任。「挑戦プロジェクト」「感動共有プロジェクト」発足
*軌保博光(てんつくマン)は顧問に就任。

10月

アタカマ砂漠レース チーム優勝

「挑戦プロジェクト」TEAM A☆H☆O チームメンバー10名でチリ・アタカマ砂漠レースに挑戦。チーム優勝を果たしました。

12月

第1回ビーチクリーンアップツアー in 香港を開催

「感動共有プロジェクト」の一環として、第1回ビーチクリーンアップツアー in 香港を開催。32人に参加をいただき、約552kgのゴミを拾いました。

12月

カンボジア支援プロジェクト卒業

カンボジア支援プロジェクト卒業。独立し「NPO法人 GLOBE JUNGLE」発足。



カンボジア支援プロジェクト

MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

今カンボジアでは、首都プノンペン等を中心に目覚ましい経済成長をしている一方で、学校や井戸の不足、貧富の差の拡大等により、雇用を得るために必要な「教育」が受けられない子供達がまだまだたくさんいます。

当プロジェクトは、お預かりしている支援金がどんな笑顔に変わっているのか「見える支援」を大切にしながら、教育支援やスラムや孤児院の自立支援等を通して、子供達の人生の選択肢が増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔が増えるきっかけを創り、お互いに成長していける活動をしています。

2016年度もたくさんのご支援を頂き、各プロジェクトを遂行出来ました。また、たくさんの日本人がカンボジアを訪れ交流の輪がさらに増え、さらに、くっくま孤児院の子ども達が冬の北海道に招待され、日本とカンボジアの文化を伝えあい、中学校訪問をし、子どもたち同士の交流を行いました。

2016年12月、カンボジアプロジェクトはメイクザヘブン卒業し、新しい団体「NPO法人 GLOBE JUNGLE」として新しいスタートを切ることになりました。活動内容は変わらず、さらにパワーアップしてカンボジアの子どもたちをこれからも見守っていきたいと思っています。今まで、応援本当にありがとうございました。

活動内容

プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

- くっくま孤児院運営 ●ババママ大作戦！奨学金制度
- バサックスラム支援 ●NCCLA孤児院支援 ～大学応援サポート～

プノンペン近郊&プレイヴェン州プレイクラン村での支援

- 学校建設事業 ●まいど大作戦！井戸掘り支援
- プレイクラン村支援 ●スタディツアー&現地コーディネート&日本語教師インターン

足跡

- 2004年** バサックスラム支援開始
第1回スタディツアー開催（計27回のツアーを行い、延べ588人に参加頂きました。）
井戸支援開始（915基の井戸を掘りました。）
- 2005年** 奨学金制度ババママ支援開始（5,201名の子供を支援しました。）
「カンボジアの天使が舞い降りるJAPAN TOUR」第1回開催
（計6回のツアーを行いました。）
- 11月** カンボジアにプノンペン事務所設立
- 2006年**
3月 プレイクラン村に学校を建設し、開校式を実施
6月 バサックスラム移転時の緊急支援実施
- 2007年**
10月 第1回ババママツアー開催
（2回行い、延べ32人に参加して頂きました。）
- 2009年** バサックスラム幼稚園建設
- 2010年** 公立小学校1校建設・プレイクラン村の学校改築
- 2011年** くっくま孤児院運営開始・孤児院引越し
公立小学校1校建設
第1回くっくまツアー開催（計8回のツアーを行い、延べ190人に参加頂きました。）
- 2012年** 第1回親子ツアー開催（計3回のツアーを行い、延べ37人に参加頂きました。）
- 2012年、2013年** 公立小学校2校ずつ（計4校）を建設し、開校式を実施
- 2014年** 公立小学校に図書館設立
- 2015年** 公立小学校1校建設（2014年JAPAN TOUR収益にて）
- 2016年** 公立小学校1校建設
- 2016年1月** 「天使が舞い降りるJAPAN TOUR Special」実施。孤児23人を札幌に招致
- 2016年12月** メイクザヘブンから卒業



担当：森絵美子

プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

プノンペン市内の急速な経済発展により、貧富の差が激しくなり、生活が厳しい子や学校に通う事が困難な子供達がまだまだ沢山います。孤児院の運営、奨学金制度、スラムと他孤児院の支援等、プノンペンでは主に子供に笑顔が増えるサポートをしています。



くっくま孤児院運営

2008年から、カンボジアの孤児院で育った踊りの先生たちが、かつての自分たちと同じ境遇の孤児院の子供達を集めて孤児院を始めましたが、当時24人いた子供達の食費を捻出する事も困難になり、孤児院解散の窮地に追い込まれていました。そこで、踊りの先生たちの頑張りを応援したい、素直で元気いっぱいの子供達を応援したいと思い、2011年から、MAKE THE HEAVEN CAMBODIAの孤児院として、先生たちと共同運営を開始しました。

いろんな環境で育ってきた子供達は、くっくま孤児院で、毎日ご飯が食べられ、毎日水浴びができて、毎日学校に通えて、毎日寝る場所がある。そんな当たり前の事に心から幸せを感じ、日々笑顔で楽しく生活しています。その笑顔は、施設を訪れたみんなを幸せにしてくれています。

現在は24人の子供達と、踊りの先生1人とスタッフ3人が、一緒に生活しています。元気な素直で優しい子供達と、その子供達を愛して一生懸命運営しているカンボジアの大人達やメイクのスタッフ、ここには素敵な笑顔が溢れています。



2011年からは、くっくまファミリーの各サポートコースや、毎月一定額の寄付を通じてご支援いただくマンスリーサポーター制度をスタートして、毎月の食費や生活全般・教育の支援を行っている他、カンボジア国内で伝統舞踊を披露し、手作りのアクセサリーを日本で販売し、自分たちの力でも孤児院を運営出来るようにサポートしています。



また、2011年11月には、多くのご支援を頂いて新しい土地と建物に移転し、自給自足を目指して庭で子供達が野菜やニワトリを育てています。2012年はソーラーパネルの設置を行いました。今後も子供達を応援する家族を増やしていきます。2014年はジャパンツアーを行い、日本各地で伝統舞踊を披露し、大成功を収めることが出来、2015年にツアー収益で小学校建設をしました。2016年1月、札幌に招待され、1日限定公演を行い、500人のお客様の前で、伝統舞踊やバンド演奏を披露しました。

※くっくま孤児院の正式名称：CCMHA (Cambodia's Children Make the heaven Association) 孤児院

くっくま孤児院運営費内容

運営費：毎月約3,000 \$

内訳：土地レンタル代500 \$ ・ お米500キロ ・ おかずら調味料1000 \$

学校費用 (試験代・英語学校など) 500 \$ ・ スタッフ給料 (踊りの先生・調理スタッフ)

病院代・洋服や制服等の衣類・伝統舞踊の楽器や衣装・歯ブラシやせっけん等の生活用品・文房具等

※水道・電気代は、子供達がカンボジアの伝統舞踊を踊って頂いた募金で支払っています。

ババママ大作戦！奨学金制度

2005年の13人からスタートしたババママ大作戦は、2016年で12年目を迎え、ババママの皆様のおかげで、プノンペン市内&近郊の貧困家庭の子供達の学校に通いたいという夢が叶えられ、安心して勉強を続ける事が出来ています。奨学生の写真付報告書や、本人からの手紙のお届け等、日本のババママとカンボジアの我が子が繋がりを、家族のような温かい心の交流が出来るようお手伝いをさせて頂いています。



また、新学年がスタートする11月には認証式を行っている他、ババママがカンボジアを訪ねてきてくれた際には、いつでも我が子に会う事が出来るようにコーディネートを行っています。2016年度は、継続も合わせて322人の子供達がこのプロジェクトで学校に通う事が出来ました。



バサックスラム支援



カンボジアを支援をするきっかけとなったのが、バサックスラムとの出会いです。2005年から必要に応じたサポートを続けてきました。今までに、寺子屋の食費(米マン・おかずマン)や、幼稚園の校舎設立、伝統舞踊の衣装や化粧品の支援等を行った他、緊急時の医療費等のサポートも必要時に行いました。2016年からは、寺子屋を卒業して自分の将来に向かって1歩前に進み始めた子どもたちの応援をしています。(現在バサックスラムは、他の大きな支援団体が寺子屋一帯を含む全ての子どもたちを対象にした、全面サポートに入ってくれています。)

NCCLA孤児院支援 ~大学応援サポート~

プノンペン市内にあるNCCLA孤児院を運営している夫妻との出会いを、私たちカンボジアスタッフは奇跡と呼んでいます。素晴らしい2人から色々な事を学びながら、子供達への支援と交流を続けています。定期的に物資を送ったり、スタディツアーの際に夫妻が運営するレストランやクッキー屋さんを訪れたりする事で、自立支援を支えていました。子ども達が大きくなってきてアルバイトをしたりするようになり、2014年12月NCCLA孤児院は解散という形を取り、夫妻はレストラン運営をしながら、残った小さな子ども達の世話を引き続きしていきます。2016年NCCLA孤児院の子どもたちは、大学応援基金によって計6人が大学に進学しています。今後も大学応援基金と共に、一緒に成長していきたいと思っています。



プノンペン近郊&プレイヴェン州プレイクラン村での支援

村支援で最重要課題が、「自立支援」に向けての取り組みです。はじめの一步をお手伝いする気持ちで、学校建設や井戸掘りやフェアトレード商品の作成等を、村の人たちと協力し合い、共に勉強を重ねながら支援しています。

学校建設事業

カンボジアでは、国の経済の発展と共に、教育にも力を入れ始めています。その為プノンペン市内を中心に、私立学校や塾がどんどん出来ており、ある程度家族の収入が安定している子供たちはしっかり勉強できる環境が整ってきています。しかし、地方では、学校に通いたくても通えない子供たちがまだまだ沢山います。学校や、教室が足りず、青空教室のような環境で勉強している子供たちもいます。学校で勉強が出来ること、学校で友達と一緒にのびのびと遊べるのが、どれだけ幸せで楽しいことなのかを、カンボジアの子供たちは伝えてくれます。

私たちは、文部省から依頼のあった場所を実際に視察して、主に校舎の建て替え・建て増しを中心に、学校の先生たちとミーティングをして学校建設の場所を決定していきます。2016年は、公立の小学校を1校建築し、累計、幼稚園小中学校1校と図書館1棟になりました。



まいど大作戦！井戸掘り支援



2004年のカンボジア事務所設立当初から2012年までの8年間、皆様の想いが詰まった井戸をプレイヴェン州やシェムリアップ州の農村地域を中心に合計915基を届けてまいりました。

現在は、今までの井戸掘り募集を少なくし、今まで掘った井戸の定期的な水質検査を中心としたメンテナンスを行っています。(2016年は15基作成)今後も基準値をクリアした安全な水を提供し、村の家族がこれからも安心して井戸を使用することが出来るよう支援を続けていきます。

プレイクラン村支援

プレイクラン村を始めて訪れた際に、子供達が民家の軒下でぎゅうぎゅうになって勉強している寺子屋と出会った事をきっかけにして、2006年にプレイクラン村に村人の手作りで3教室の校舎を建設しました。基本的に幼稚園～小学校3年生レベルまでの子が通い、4年生からは公立の小学校に通っています。2010年には、支援によって校舎の建替えを行い、レンガやコンクリートで建てられた校舎が完成しました。2014年は、学校運営が出来るように養鶏プロジェクトを発足したり、公立小学校の先生を村に招待し、先生たちの教授法スキルアップなどに取り組みました。

一時ストップしていたおかゆ給食は、2016年2月より復活し、現在は毎月2回学校に通う子供達におかゆ給食を提供しています。そして、学校に遊具をプレゼントしたり、古い教室の建て替えをしたり、定期的に文房具等の支援も行っています。スタディツアーでは、毎回村でのウルルン滞在・ホームステイをスケジュールに入れています。村に滞在して子どもたちに日本語を教える、日本語教師ボランティアも随時募集しています。



スタディツアー&現地コーディネーター&日本語教師インターン

これまで、2004年から述べ27回のスタディツアーを行いました。「まずは行ってみよう。」「まずはやってみよう。」「きっとその先に何かがあるはず。」を合言葉に、2016年も開催し沢山の方がカンボジアに来て、各施設の子供達との交流や、村でのホームステイ体験等を行いました。カンボジアの子供達と一緒に過ごす事で、今を一生懸命生きる子供達の笑顔に癒され、刺激をもらい、最終日には何人もの参加者さんが涙を流して帰っていきます。スタディツアーの際に日本から支援物資をお預かりし、古着や文房具等を各支援先の子供達へ渡しています。

スタディツアー以外でも、くっくまツアーや親子ツアー、友人を連れ立ってのミニツアーや、個人旅行の延長でのカンボジア訪問等のコーディネーターも随時行い、学生さんの卒業旅行や、会社での社員旅行にも利用して頂きました。また、日本語教師のボランティアが子供達へ日本語教室を開催したり、美容師さんが青空カットをしてくれたり、音楽を教えてくれたり、バルーンアートや似顔絵を書いてくれたりする等、訪問者の特技を活かし、カンボジアの子供達も喜び交流を行いました。

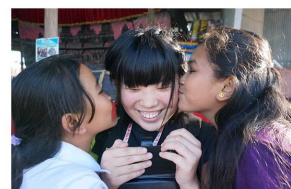
スタディツアー参加者の声



日々何かにイライラし、グチをこぼし、悩んで自分がとってもらった見え、またもっと前向きに笑って楽しく生きていきたいと強く思うことができました。カンボジアでの8日間はイライラなんて少しもなくて、とにかく楽しくて、思い返してみても本当に笑ったなーって！！こんな気持ち初めてで、この感情をずっと忘れたくないし、今回出逢ったたくさんの人達との縁を一生大切にしたいと強く思います。今回の出会いやたくさんの経験を忘れずに、日本に帰ってから自分のやるべきことを一生懸命にやり、カンボジアの子ども達に負けない位パワフルに生きてやる！！と決めました。そしてクメール語を習得してまた戻ってきたいです。今回のツアーで私は一歩前に進めた様な気がします。たくさんの刺激を与えてくれた、カンボジアでの出会い全てに心から感謝します。本当にありがとうございました。(大学1年生 女性)

今回、このツアーに参加するまでに、何度も悩みましたが、最終日を迎えるにあたり、参加して正解でした。

くっくまの子供達、バスケットの子供達、村の子供達、たくさんの子供達と触れ合い、勇気と元気と生きる楽しさを教えてもらいました。仕事や子育ての事で悩んでいる自分がちっぽけに思えてきました。日本では当たり前のもので、カンボジアではそうではない事ができ、今回参加して良い経験ができました。今回のツアーを企画、お世話頂きました皆様に感謝します。(40代 女性)



このツアーに参加して良かったです。たくさん遊んでたくさんを知りました。1日1日がすごく早く充実していました。どんどん楽しくなってきたカンボジアが好きになりました。村とかに行くと、みんな「日本の方がきれい。」とか言うけど、そこで暮らしている人がいて、その人達はとても楽しそう、何が良いのかよく分からなくなりました。でもそれを考えられて私は良かったです。どの子ども達もすごくかわいくて感動しました。裏表ない、心の底から笑顔の子たちばかりですごくいいな、いいなと思いました。私も将来は人の為に働きたいです。クメール語や踊りを練習してまたカンボジアに来たいです。ありがとうございました。(中学校1年生 女の子)

プレイクラン村は、とてもカンボジアの原点の暮らしや生活が味わえる所で良かったです。

本当に、いつも日本で時間や生活におわれていることを忘れさせてくれて、人間として大切なことを感じさせてくれ、自分らしくいられる安心できる場所でした。日本で生活していると、自分を変えることはとても難しい事だけど、カンボジアに来てこのツアーに参加すると、自然にカンボジアが後押ししてくれて気持ちを自分らしく素直になれます。このツアーの良さは、いろんな仲間が、いろんな自分を捜しに来て、皆が自分自身に前向きになれて、自分らしく生きようと実感できる、ハッピーになれる、本当に素晴らしいツアーです。(40代 女性)





植林・間伐プロジェクト WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL

子供達にどんな素敵な未来を繋げていけるのか？その答えの一つが「植林」でした。

木を植えることで雲ができて雨が降り、水資源が確保されます
 木を植えることで酸素の供給が行われ、大気が浄化されます
 木を植えることで地盤が安定し災害を防ぐことができます
 木を植えることで生態系を守ることができます
 木を植えることで森ができます
 森の手入れをすることで森に光を届けることができます
 森は生命の源なのです

そして、木を植えながら、森の手入れをしながら一人一人の心の愛という木が育っていきま
 たくさんの人と繋がって、心をつなげて力を合わせて素敵な未来を繋げていきます

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱい地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動しています。

2016年は、「希望の森もり大作戦～東北植林編～」で「森の防潮堤」と作る植林のために広葉樹の育苗と5月には岩沼市の千年希望の丘植樹祭にて、植林ツアーを行いました。また、4月と9月に中国内モンゴル植林ツアー、ワンフェスの活動を広く知っていただきたいと、沖縄から愛知までの25県をこれまでの活動の報告を兼ねて講演を行いました。

各ツアーを通してたくさんの人に参加いただき、たくさんの人と力を合わせて笑い楽しみながら「緑」と「希望」を増やすことができました。

活動内容

- 一円募金 ～一円で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～
- 中国内モンゴル植林
- 宮城植林
- 東北植林プロジェクト（め組JAPANとの共同企画）
「希望の森もり大作戦～東北植林編～」
- 間伐プロジェクト



足跡

- 2005年4月** 第1回中国内モンゴル植林ツアー
 *2016年までにツアーを計16回開催しました。（2016年は4月と9月に開催）
- 2008年11月** 植林事務局をWONDERFUL植林FESTIVALと命名し、新たに事務局を設置。
 同時に一円募金プロジェクト開始 *2016年までに一円ヒーローが934名となりました。
- 2009年6月** 第1回ブラジル植林ツアー開催
- 2009年8月** 第1回南アフリカ植林ツアー開催 *2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
- 2010年3月** 国内植林ツアー開催 *2014年までに北海道、和歌山、熊本の3箇所で開催しました。
- 2010年4月** 国内間伐ツアー開催
 *2015年までに、宮城、静岡、奈良、和歌山、熊本、兵庫の6県で計9回の間伐ツアーを開催しました。
- 2012年1月** 東北植林の準備開始
 *9月に「希望の森もり大作戦～東北植林編～」と名付け、スポンサーや育苗の募集を開始しました。
 *2013年からは、宮城県石巻市で活動している「NPO法人いしのまき環境ネット」様に協力頂いて育苗を継続中。
 *2015年は、約2年半育てた苗木2500本を、「岩沼市千年希望の丘植樹祭」にて植樹しました。
 *2016年は、2回目になる「希望の森もり植林ツアー2016みみやぎ」を開催。
- 2016年2月** 一円マンの全国報告会の旅
 *沖縄県から愛知県までの25県を、天ぷら油の廃油で走る車で周り、10年間の報告と一円マンを増やす旅。

担当者より

どうしたら当たり前雨が降る地球を未来の子供達に残せるのだろうか？その答えの一つが植林でした。木を植えると、雲が出来て雨が降ります。

そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。そして、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL（以下ワンフェス）」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。2012年からは東日本大震災の津波で被害のあった福島県から青森県の沿岸部に森の防潮堤を創りたいという想いで、東北で広葉樹の苗木を育て始めました。2016年は、一円募金活動・東北植林の苗木のオーナーさん募集した他、一円マンを増やすための全国ツアーを開催。

5月に宮城県岩沼市の千年希望の丘植樹祭にて植林ツアー一行い、4月と9月には中国内モンゴルで植林ツアーを行いました。



かごしまん

一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。

一円募金を通して、「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」、「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える!」という「一円玉=緑」の意識をまずは日本から広めています。

また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになろう!という想いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び、一円マン、一円レディ、一円レンジャー、一円ステーションの4つのヒーローを募集しました。



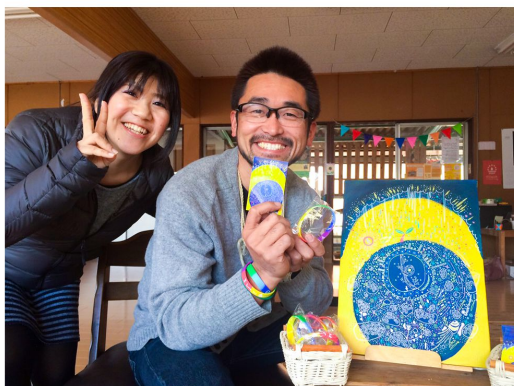
***2016年の実績→登録人数：75人（チーム） / 募金額： 円**
***2016年までの累計→登録人数：934人（チーム） / 募金額：9,283,439円**

ワンフェスの活動の啓発

ワンフェスではこれまで11年間の活動を広く知っていただき、自分が出来る小さな一歩で世界中をワンダフルな世の中にする為に動き出す人を一人でも増やそうと、全都道府県を回り活動の報告をさせていただきました。

またその回る手段として、天ぷら油の廃油で走る車で移動しました。当初、2・3月で沖縄県から愛知県まで、6・7月で岐阜県から北海道の予定が、熊本地震の活動にシフトしたため前半の日程で沖縄県から愛知県までの24県で活動報告しました。また、個性心理学のチャリティーセッションを実施し、出会った方々のココロにも希望の種をまきました。

***全部で26講演・207名のセッション・ 名の1円マンが増えた。**



植林プロジェクト

中国内モンゴル植林

2016年4月と9月に、第15回、第16回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。4月のツアーでは、小中学生が3名参加し、若い世代にも大地に木を植える喜びや楽しさを伝える事が出来ました。9月のツアーでは、数年前までは一面沙漠だった植林地に草原が広がって、昆虫や爬虫類だけでなく野鳥も帰ってきて、鳥の鳴き声や虫の姿をたくさん見る事が出来ました。さらに、うさぎなどの小動物の糞も確認できて少しずつ森が増えております。

また、4月のツアーでは、「日中友好交流会ハッピー植林交流会」開催し、 が参加し国際交流を行いました。2回のツアーとも現地の中学生30名と一緒に植林を行う事が出来て、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていこう気持ちを共有する事が出来ました。

***第15回：ツアー19名+交流会 名+中国の子供たち30名。ポプラとスナナツメを766本植林**
***第16回：ツアー22名+中国の子供たち28名。ポプラとスナナツメを580本植林**

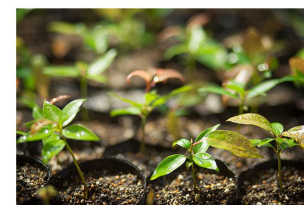


宮城植林

2016年5月28日から29日に、東日本大震災後にMAKE THE HEAVENの活動拠点としてご縁を頂いた宮城県で、2012年から育てている苗木を植樹する植樹ツアーを開催しました。

植樹祭当日は、岩沼市主催の「第4回 岩沼市希望の丘植樹祭」に団体枠で植樹に参加し、1600本の植樹しました。また、宮城県の被災した牡鹿半島で宿泊することで当時のことを知ってもらい、翌日は苗木のお世話の体験をしていただきました。2泊3日のツアーで苗木を育てる体験から未来の森の堤防になる植樹祭を体験し、自然と被災地に希望を残す植樹祭ができ、参加者さん同士も深く繋がるツアーとなりました。

***第2回 希望の森もり植林ツアー2016 inみやぎ：ツアー参加者51名**
(内：連携団体から11名) 21種類10万本の植樹祭



「この冊子は平成28年度日本郵便の年賀寄附金の助成を受けて一部活動しました。」

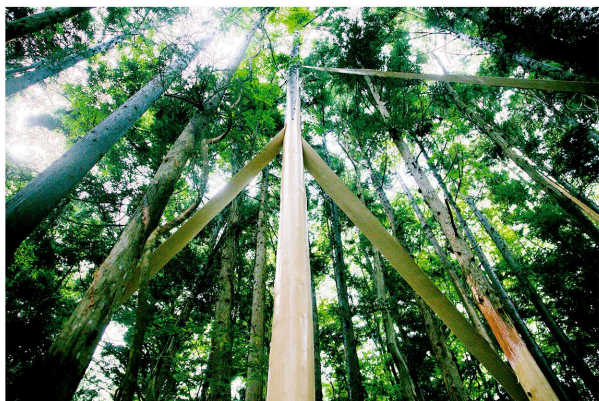
東北植林プロジェクト 「希望の森モリ大作戦～東北植林編～」 (め組JAPANとの共同企画)

2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。有害な物を省いた瓦礫を使って土手を築き、深根性・直根性の常緑広葉樹を混植・密植で植林する計画です。森の防潮堤は防潮堤本来の役割を果たすだけでなく、津波が防潮堤を乗り越えた場合でも、津波の速度を和らげて人や家屋・家財の流出を防ぎ、被害を最小限に抑えられる事を知りました。

ワンフェスはこのプロジェクトに賛同し、2012年1月から東北植林の準備を始め、9月には「希望の森モリ大作戦～東北植林編～」として活動しています。現在、樹木の種を拾い、常時30,000本の、苗木を育てています。

2016年は、25種類・約30,000本の苗木を育てました。活動を遠くから支えてくれる『苗木のオーナー制』では、2016年に新たに 名 のオーナーが増え、延べ244名以上の方から応援をいただいております。

間伐プロジェクト



今、日本の森はほったらかしにされて元気が無くなっている事、それが原因で大雨の時に土砂崩れなどの災害が起きている事、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法としてNPO法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。

一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。

間伐ツアーでは、NPO法人「森の蘇り」の指導のもと、日本の森、世界の森の現状と間伐の基礎を学び、実際に森に入ってきらめ樹間伐を実践しています。きらめ樹間伐は、チェーンソーや重機を使わず、ノコギリだけで楽しく間伐する事が出来るため、子供からおじいさん、おばあさんまで、幅広い年齢の方々に参加して頂き、たくさんの子供達の笑いが森の中に響きます。また、間伐ツアーは植林ツアー同様、大地と人が繋がり全国各地の参加者が繋がるきっかけとなり地元に戻ってからの最初一步に繋がっています。今後も、より多くの人に日本の森・世界の森の現状を知ってもらい、森を守り、人の元気になるプロジェクトを進めていきます。

※2016年の間伐ツアーは実施しておりません

参加者の声



植林(40代女性)

日本に帰ってから、アスファルトの上にいるのに・・・なぜか砂漠の土の感じがして、気持ちがトゲトゲせず、やさしいです。自然がおしえてくれることの偉大さにきづかされました。人から言われて気づく、意外な自分の一面にたくさんの発見ができたこと。もっといろんな出会いが未来に待ち受けていると思うとワクワクします。5泊6日がたのしくてあっという間でした。日本でストレスや悩み抱えてだらうけど、モンゴルまでわざわざ木を植えにくるみんなのチャレンジ精神とやさしさを見ることができたこと、そんな仲間ができたことが、日本に帰ってきて強い気持ちになれていることがよくわかります。みんなつながってる。ありがとうございます。謝謝。

植林(30代女性)

理屈ではなく、正義感でもなく、ただただ、地球を感じることで、地球を大事にしたいと思いました。地球があるから、わたしたちは生きていける。地球の愛に包まれて、今、生きているんだって、感じました(***)
沙漠化を起こしてしまう、過放牧、過開墾、過開拓。
それらは、先進国に生きるわたしたちの意識が変わることで、防ぐことができると、学びました。自分が行動を選択していくこと、そして、ここで得た経験、知識を、自分から周りの人たちに伝えていくことを、していこうと思いました。
楽しくって素晴らしい仲間たちとたくさん出逢えて幸せです！これからもよろしくお祈りします(^人^)

植林(20代女性)

そうだ！木を植えよう！！
沙漠が広がらないように木を植えたいと思って参加しましたが、逆に、広大な大地や苗木から物凄いエネルギーを貰ったな～と感じています。こればかりは、行かないことには味わえない！！
ほんの少しでも植樹に興味を持っている人は、是非とも参加してみたいです！！
私もまたタイミングが合う時は参加しまーす！(≧▽≦)b



挑戦プロジェクト

TEAM A☆H☆O

「誰かの挑戦が 誰かの勇気につながる」

「誰かの挑戦が 誰かの幸せにつながる」

できる、できないではなく、笑い楽しみながら一步を踏み出すことで誰かに勇気や幸せを届ける事ができることを、様々な挑戦を通して伝えていきます。

2011年に、日頃伝えられなかった想い「ありがとう」、「大好き」「大丈夫だよ」などを大切な人に踊りを手段にして伝える企画「まいどハッピー大作戦」を日本各地で実施しました。この企画を通して、一步踏み出す事で大切な人に勇気や幸せを届けることができました。同年3月に、東日本大震災が起きて、復興支援に携わる中で、さらに笑顔や希望を増やす活動をしたと思い、2013年にTEAM A☆H☆Oを結成し、毎回チームメンバーを変えて、モロッコサハラマラソン、ブラジルジャングルマラソン、チリ・アタカマ砂漠マラソンに挑戦してきました。挑戦する人も、応援する人もみんなが一つになって、一緒にたくさんの勇気や幸せを届ける事ができました。

この活動をさらに広げていくために、2016年から「挑戦プロジェクト」としてMAKE THE HEAVENの活動として始動しました。

これからは、過酷なレースだけでなく、もっとたくさんの人が参加できる挑戦企画して

A あかるく

H 他の誰かを

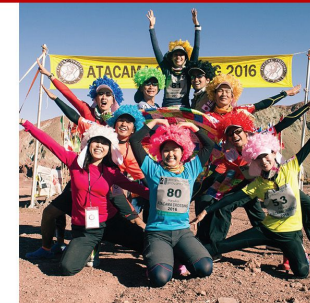
O 応援する 僕たちの挑戦で！

活動内容

TEAM A☆H☆Oとは

- A あかるく
- H 他の誰かを
- O 応援する 僕たちの挑戦で！

ワクワクした仲間が集まり、チームとなり1人では挑戦できないことを、チーム全体で楽しみながら挑戦を続けることで希望のたねを増やすことを目標に動いています！



足跡

2013年12月 Team ahoを結成

2014年 4月 世界でもっとも過酷なレースの一つ“モロッコサハラマラソン”（1週間250キロ）に日本人初チームで初出場

2014年10月 世界でもっとも過酷な耐久レース“ブラジル・ジャングルマラソン”（1週間275キロ）を日本人初チーム（うち1名女性）で出場しチーム部門で優勝

2015年10月 世界でもっとも過酷と言われる“南米チリアタカマ砂漠マラソン”にチーム6名で出場 チーム部門2位、特別賞の「スピリットアワード」を受賞

2016年 4月 NPO法人MAKE THE HEAVEN 理事長に就任に伴い、名前をTeam ahoから TEAM A☆H☆Oに変更

10月 世界でもっとも過酷と言われる“南米チリ・アタカマ砂漠マラソン”にチーム10名で出場。チーム部門1位優勝

担当者より

TEAMで決まっているのは、「ワクワクすることに挑戦する」ということだけです。

チャレンジごとにメンバーは変わり、目標に向かって成長していきます。

大きな目標に挑戦するということは、地平線の向こうまで広がる畑に種をまき続けることに似ています。時に無茶、無謀だと思われることもありまますが、それでも楽しみながら、笑顔を絶やさずに進み続けます。

笑顔なき大地には、喜びも感動も、芽を出すことはありません。果てしない種まきも、いつか花が咲き、収穫を夢見るからこそ、続けることができ終わりが見えてきます。

私たちが挑戦する姿・そこに至るまでの準備、苦勞、学びをSNSなどで発信することで、多くの人たちと喜びや葛藤、挑戦に向けた熱量を共有します。

私たちが一步を踏み出したことで、誰かが何かを考え、行動を起こす「きっかけの種まき」をTEAM全体で創っていきたいのです。



こういちマンモス

南米チリ・アタカマ砂漠マラソン

「世界四大砂漠マラソン」の一つで、世界でもっとも過酷なレースとも称されます。チリ・アタカマ砂漠を舞台に7日間にわたり大会が展開され、選手は食料や衣類、寝袋など10kg超の装備を背中に担いで、250kmを走り抜きます。最高気温40度、最低気温0度と寒暖差が厳しいことに加え、標高3200mの高地がスタート地点となり、酸素が薄く高山病との戦いも強いられます。灼熱の砂漠でランナー同士が互いを助けあいながらゴールを目指すレースです。



日程:2016年10月2~8日
主催:Racing The Planet

ステージ1 36.4km
ステージ2 44.5km
ステージ3 39.9km
ステージ4 44.1km
ステージ5 73.4km
(ロングステージ)
ステージ6 8.7km

砂丘、川渡り、砂利道、もろい岩石などのコースのほか、機敏な選手でさえ全力疾走が困難といわれる、塩の結晶で覆われた悪路を駆け抜けます。各ステージとも約10km間隔でチェックポイントが設けられ、選手は休息を取るだけでなく、水の補給や医師の診断、治療を受けられます。ロングステージの呼び名をもつステージ5は2日間にわたり、ほかのステージの倍近い距離を昼夜を問わずに走ります。

これまでの実績

- ★2014年4月 サハラマラソン(モロッコ 250km) チーム部門に出場。
[スポンサー] エゴスキュージャパン [応援] Salomon, Suunto, シェルバ
- ★2014年10月 ジャングルマラソン(ブラジル 275km) チーム部門に出場し、日本勢で初となる優勝を果たす!
[スポンサー] シェルバ [応援] エゴスキュージャパン, Salomon, Suunto, 明治乳業
- ★2015年10月 アタカマ砂漠マラソン(チリ 250km) チーム部門に出場。チーム部門2位 特別賞スピリットアワード受賞!
[スポンサー] シェルバ [応援] エゴスキュージャパン, Salomon, Suunto, 明治乳業

レースまでの挑戦

ゼロからの資金集め。

話は、前回のアタカマ砂漠マラソンに遡る。

残念ながら、レース4日目ですり足してしまっただけで、石本幸四郎。彼がレース直後に「再挑戦をしたい」という悔しさを打ち明けてくれた。そんな彼の想いに応えるため、今年のアタカマ砂漠マラソンに再び挑戦することが決定した。

石本幸四郎という男は人に比べ大きなハンデを背負っている。網膜色素変性症という病気のため、視界は一般人の約5%ほど。足元が見えないため、体力、メンタル面の強さも、人以上に必要となる。そんな彼からの挑戦への思い。それは周りのメンバーの思いも燃え上がらせることになる。

なんと去年スタッフで参加した彼の妻 昭子も、選手として共に参加することが決定。そして、全国から9名が集まり、選手兼撮影スタッフとして1名、大会側のスタッフとして2名、現地まで同行するメンバー1名+赤ちゃん1名の、計16名が集結。

そして、みんなで掲げた目標。

挑戦を決めた時から各々の挑戦は始まっていた。前回は、一緒に行っていた資金集め。それを今年からは各々で資金を集めることに。一人につきかかる資金は約100万円。それぞれに資金集めに奮闘。しかし、その分普段会えないメンバーの気持ちをどうそろえていくかが、逆に大きな課題の一つだった。

そこで、何かひとつのことをみんなで目標を掲げやっという、ということになりうまれたのが「星に願いを」という企画。手のひらサイズのカラフルな布に、皆さんの夢や願いを書いていただき、それを繋ぎ合わせ、世界一綺麗な星空が見えるといわれるアタカマ砂漠の星空に掲げて「星に願う」というもの。

最終的に1302枚の布が集まり、大会前日、レースキャンプ地で満天の星空の下、「星に願いを」の布をみんなで掲げ、みんなの想いを星に祈りを捧げた。



TEAM A☆H☆Oが活動を続ける想い

誰かの挑戦が、誰かの勇気につながる

誰かの挑戦が、誰かの幸せにつながる

できるかできないかは、わからない。けれど挑戦してみたい。私たちの挑戦自体は、きっかけを作るための小さな一歩です。勇気を持って始め、前向きに挑み続ける姿を発信し続けることで、誰かが勇気を出し、新たな一歩を踏み出すきっかけになる。そう信じています。

大切なのは続けること。

ワクワクすることや目標が一人ひとり違うように、立ち足はだかる壁も、それぞれ違います。それでも失敗しても諦めなければ、夢は実現できます。

自分たちの挑戦が、誰かの喜びや幸せにつながることをイメージし、笑い楽しみながら、チームで挑戦を続けています。

「みんなでやれば、出来ない事なんて無い」このメッセージを、ユーモアを交えて発信します。多くの人たちと感動を共有することで、新たな挑戦の後押しにつなげたいと考えています。



レース参加者の声



こういちマンモス

チームのみんなが諦めることなく一歩ずつ前を向いていたことが大きく、チームの誰か一人が欠けていたらきつと全員は完走することができない、ギリギリの中、みんなで励まし合い、助け合って、支えあってこれだからその結果だと思っています。星に願いを書いたみんな・応援して頂いたすべてのみんなのおかげで、10人全員がゴールすることができ、チーム部門では優勝することができました。僕は、去年の経験があったことでレースの展開を予想でき、みんなに声をかけあって、レースの流れをみんなと相談しながら進めることができました。本当に嬉しかったし、また一つ最高の思い出ができました。こうやって、最高の時間を一緒に過ごせたこと・共有できたこと・喜び合えたことが本当に嬉しいです。ぼくは、これからもみんなと一緒に喜び合いたいです。もっと自分自身に磨きをかけていき、挑戦を通して「誰かの勇気や幸せにつながる」きっかけを作っていきます。

石本 幸四郎

チーム10人全員でアタカマ砂漠マラソン完走しましたー！！！！しかもチーム優勝までいただきました！！！！さらに、個人的なことですが、足裏の怪我の酷さから医療チームより「今大会のケガ人チャンピオン」と命名されました(笑) レース初日からドラマだらけの展開で、毎日が正念場。それを乗り越えさせてくれたのは、チームメンバーみんなの「10人で絶対完走する」という想いと、みなさんの応援の力でした。みなさん、本当に本当に本当にありがとうございます！！！！

TEAMA☆H☆Oリーダーのこうちゃんがミーティングの度に、みんなに問いていた質問があります。「ゴールした時どんな気持ち味わっている？」

実際にゴールを迎えた時の僕の気持ちは、「感謝」しかありませんでした。応援してくださっているみなさん、チームメンバーのみんな、大会スタッフのみなさん、昨年のチームメンバー、再挑戦のために再度アタカマに来てくれたこうちゃん、両親、そして側で支えるために選手として出場してくださったあっこ。感謝があふれてあふれて涙が止まりませんでした。

今、大会最終日翌日の午後です。足裏の怪我がなかなかナイスな状態なので、ホテルのベッドの上で転がっています。僕にとっては2年越しの挑戦。なんだか今は完走したという実感よりも、ただただホッとしている感じです。明後日、日本に向けて出発します。みなさん、応援いただき本当にありがとうございましたー！！！！

あっこ

【10人みんなで完走する】この気持ちがみんながなかったから、肉体の限界を越えても、誰一人諦める事はありませんでした。それは、応援してくださっている人たちがいたからこそ。辛かったとき、幸四郎と一緒に、応援してくださった方、お一人お一人の名前を声に出し、そして、【ありがとう！！ありがとう！！】と言いながら歩きました。それが、痛みやしんどさを忘れさせてくれ、そして前に進む力をくれました。

視野の狭い幸四郎にとって、このレースは本当に大変だったと思う。でも今年の幸四郎は、何でも立ち上がり、諦めませんでした。わたしはそんな幸四郎のリタイアの心配をすることは一度もありませんでした。なぜなら、幸四郎は完走できると信じていたし、頼もしい仲間たちと一緒に走ったから。その場その場でそれぞれが支え合い助け合っていました。わたしもメンバーにたくさん助けられました。そして、諦めない姿にたくさん力をもらいました。1週間のうち、余裕な日は一度もなく、いつも何かが起きていましたが、その都度みんなで力を合わせ乗り越えました。誰か一人欠けたら、今回完走できなかったかもしれない、それくらい一人一人が、大活躍でした。応援してくださった皆さん、応援ファミリーになってくださった皆さん、力をくださって本当にありがとうございました！みなさんのおかげで完走できました！

らんぼう

幸四郎さんと全員でゴールするためにできることを全力に取り組みみんなの姿に何度も泣かされました。今、できることを最大限にやることで達成できることがある。人間の可能性を感じた時間でした。こんな風に誰かをおもいやる気持ちを忘れずやることをやっていけば世界平和だって夢じゃないとおもいます。こんなにも貴重な時間を過ごさせて頂いたのは応援してくれたみんなの力があってからです。まだまだ伝えたいと感じたことはたくさんあるんですが、小出し小出しで書いてゆきます。本当にありがとうございますー！！！！

カーマ

チームメンバー、それを支えてくれたメンバー、本当にこの挑戦の全て素晴らしいものだと思います。途中で一人で歩く時間はやっぱり弱気になる時もあったけど、応援してくれている人、頑張っているメンバー、チーム全員でゴールするという約束があったから諦めずやりきることが出来ました。甘い部分もいっぱいあって、まだまだ課題も見えました。ここを新たなスタートにしてもっともっと応援して貰えるように人になりたいと思います。応援してくれた皆さん。応援してくれた皆さん。暖かく見守ってくれた皆さん。チームメンバーのみんな。本当にありがとうございました。

いけちゃん

私を感じたことは、10人いたからこそ、度重なって起こる事象に対応、乗り越えられたということ。それぞれが自分の持ち味を活かし、この10人だったからこそ揃って完走できたということです。チームワークとは、自分の予想を超えた無限の力を発揮してくれるということ。人数以上の何倍もの力を生み出せるということを見ました。チーム力の素晴らしさ、それは日本が胸を張って誇れるものです。誰かの為に動く。それが自分の幸せに繋がっている。その自分の姿を見て、また誰かが一歩動き出す勇気へと連鎖していく。本当に本当に素晴らしいかけがえのない経験をさせていただきました。それは、ひとえに応援して下さいた皆さんのおかげです。私たちがひとりじゃない、たくさんの応援してくれている人たちがついていてくれる仲間になってくれたらいいなあって教えてもらえました。このマラソンに挑戦した経験は一生の宝物です。私の人生にこの経験を出会わせてくれた、今まで出会った全ての人たちに心から感謝です。応援してくれた全ての皆さん、本当に本当に本当に、ありがとうございます！！！！

はるばい

一年前に、応援をしていた私が今年はTEAM A☆H☆Oの一人として参加できたことは、いろんな方の協力があることです。1つでもバランスが整っていなければ参加できなかった。そして、10人が揃って完走することもなかったと思います。完走に関しては、一人でももうだめだぁ～なんて思っていたら実現できてなかったし、私も自分の持っている力を出し一歩一歩、足を前に進めることをしていました。一人の力では出来ないこと。一緒にいてくれる仲間にもいいんだぁ～って教えてもらえました。この経験はこれからの人生が変化する予感です。ほんと、みなさまありがとうございます。日本で待ってくださる家族・たかしさん・あおなさん・おうたさん・えいすけさん送り出してくれて本当にありがとう。

じーによ

チームワークとイメージ力、想い、そして一歩ずつ進んでいく行動力…レース中どのタイミングでも10名がパーフェクトな配置と役割だと体感できたレースでした。そして何よりの力となったのが、応援してくれていたみんなのお陰様。他の国の選手や大会関係者からも「世界最強チーム」「世界にハッピーを伝えるチーム」「アメーzingチーム」「アンビリ〜バブ〜チーム」などなど、いっぱい声をかけて頂きました。応援企画の「星に願いを」の天布をテントにかかげた時も、他国の人達が集まってきて、写真をたくさん撮ってくれました。祈りや希望、夢や想いが世界中の人達や宇宙に届いたかと☆大会終わって、久々のシャワーとベッドに感動〜肉体と精神の限界点を越えられた感が満載のステキレースでしたよ〜応援してくれた皆さん、本当にありがとうございます。

にゃんちゃん

「自分の限界を乗り越え、1人でも多くの人に笑顔と希望と勇気を届けたい」そんな想いでレースに臨んだ。実際に走ってみると、きついし、痛いし、つらいし、しんどいし、、、色んな「〜し」が出てきたけど、仲間には笑顔で居たいという、自分との向き合いの時間でもあった。そして、しんどい以上に、めちゃくちゃ楽しかった！まだ更に成長したい自分に到達しました。

まさお(映像担当)

TEAM A☆H☆O アタカマ砂漠マラソンチャレンジ！10人全員無事完走しました！そして、そしてチーム優勝いただきましたー！1日自ら大ピンチの連続の中、全員もてるすべてを出しきってチーム力でゴールに辿り着きました〜！！(僕は撮影してたので写ってないです)('ε`´)最高のファイナル！応援してくれたみんなのおかげです！本当にありがとうございました！





感動共有プロジェクト

アミーゴ大作戦

「みんなで喜び合う」

をキーワードに、人と人、人と自然、人と動物、すべての繋がりを大切に、みんなが友達（アミーゴ）になって一人では難しいと思う事も、みんなで助け合い、支え合って、みんなで喜び合いながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

MAKE THE HEAVENの団体立ち上げのきっかけは、2003年12月に起きたイランの大地震の時に、前理事長を含む仲間10名で支援を行った事でした。それ以降、カンボジア支援、フィリピン台風支援などの海外支援を実施し、最初は「支援」という気持ちで関わる中で、学ぶこと、喜びを共有する事で支援というカタチを超えてきました。

新体制の当団体では、繋がりを大切に、もっと世界中の人たちと友達になりたい！みんなとさらに喜び合っていきたい！という想いからこのプロジェクトが誕生しました。
*カンボジア部門は独立して新しい団体でカンボジア支援を継続します。

素敵な活動をしているたくさんの仲間と手を繋いで、それぞれの役割を果たしながら、素敵な希望の物語を創っていきます。

活動内容

●ビーチクリーンアッププロジェクト

足跡

- 2014年1月 フィリピンレイテ島巨大台風災害支援開始
*2015年まで計5回のスタディーツアー開催
- 2014年11月 フィリピン台風被災一周忌慰霊祭竹あかり装飾支援
- 2015年6月 フィリピン MY RIDEに土地の購入、
コミュニティスペース建設支援、ベディキャブ支援実施
- 2016年12月 第1回ビーチクリーンアッププロジェクトin香港
(NGO OPEN EARTHと共同主催)



ビーチクリーンアッププロジェクト

活動概要

地球上の海に漂っているプラスチックのゴミの総量は、2億トンとも言われ、このまま何もしなければ、2050年にはゴミの量が魚の量を超えると予測されています。

そして海が汚れると、それを浄化する微生物の働きが活発になり海水温が上がり、台風の巨大化など、異常気象に繋がるとも言われています。また、海に漂うゴミを生き物が食べて、大量に命をなくしています。

メイクザヘブンでは、ビーチクリーンアップを通して「動けばキセキは始まっていくよ!」ということ伝えて『希望』を広げている、元スタッフ、鈴木博将(宇宙の子マサ)を応援すること。また、この活動を通して、世界中の人たちと笑い楽しみながら地球をハッピーにする仲間を増やすことを目的に、ビーチクリーンアップのツアーを開催します。

2016年は香港で5泊6日のツアーを、現地の団体『The First Penguins』の協力のもとツアーを開催。日本から総勢32名、香港から約10名が参加し、135袋、約552Kのゴミを拾うことができました。その後、香港のマスコミでは、日本人が観光ではなくビーチクリーンアップに来たことを伝え、多くの希望と次回に繋がるきっかけを作ることができました。



参加者の声

40代女性

帰国してから、毎日香港ツアーの思い出をじんわりと感じて生活しています。環境問題や海外への興味がほとんど無かった自分から、意識が大きく変化できたかな! 参加した仲間も年代幅広く、「みんなそのままオッケー!」「いろんな生き方があってオッケー!」そんな風に感じられた5日間でした。とても貴重な時間をみんなと過ごせて幸せでした!本当にありがとう。(40代女性)

20代男性

終わってしまうとあっという間の5日感だったなあとすごく感じました。ゴミ拾いを楽しくやるという新しい感じが、新鮮で楽しかったです。ゴミを拾ってきれいになって、それでいて、みんな唄って踊って、とっても楽しく笑って、すごく素敵な空間だなあと思いました。その空間と一緒に居れたことが、すごく嬉しかったです! 楽しい時間を、ありがとうございました。(20代男性)

20代女性

一番心の奥底にある想いは、「やっと自分が在りたい場所に辿り着いた」という安堵の気持ちです。誰かの為に、何かの為に、これからは生きたいなって神様にずっと話して今年夏の終わりに、職場でショックなことがあって、心はとても辛かったのですが、これは絶対に何かのキッカケに違いないって確信してた矢先マサさんのブログで、このツアーを知りました。最初はこのツアーが、「キッカケ」で、その先に何かを見つられる、と思ってたんですけど、違いました。私がやりたいことでした。

この星のために、頑張りたい。

最後の感想で話した、もし自分が地球だったら、身動きができなくて、全身泥まみれで。絶対辛くなって、綺麗に洗って、サッパリ、気持ち良くなって欲しいなって。ギュッと抱き締めて、ありがとうって伝えたいなって。そして、この星のために頑張れば頑張るほど素敵な人たちに出逢えるっていう確信も得ました。

今回のツアーで知り合えたみんなは、本当に心が凜として、キラキラして、一緒にいるだけで楽しかったし、安心したし、これからも、私の心の支えであり頑張る糧になるのだろうなって思います。そしてとにかく、「楽しく生きる」のを心底学んだので、1日一回、「ハッピー!」を日課にみんなとまた笑顔で逢えるのを楽しみにしています(20代女性)





災害復興支援プロジェクト

め組JAPAN - 2016年熊本地震 -

2011年3月11日の東日本大震災を受け、全国から過去に3度結成された緊急災害復興支援チーム「め組」の再結成を望む声を頂き、東日本大震災復興支援チーム「め組JAPAN」を発足しました。当プロジェクトは、世界中で災害が起こり生きる気力が小さくなっていく人に、「一人じゃないです！みんながついてます！」というメッセージを届けながら、希望の種を一人一人の心の中に植えて行きます。

め組JAPANの活動で大切にしている事は「つながり」です。東北では2013年から、め組JAPANの活動からワンフェスへと引き継ぎ『希望の森もり大作戦～東北植林編～』に絞って活動を継続しています。

また、2016年4月14日余震、4月16日本震で熊本地震が発災。地元の災害復興支援団体である、『一般社団法人 チーム熊本』の声を受けサポートする形で支援を開始し、連携しながら独自の支援を続けて来ました。現在、仮設住宅での寄り添い活動を中心に活動を継続中。

活動内容

● 緊急支援 及び 復興支援活動

足跡

- 2011年3月14日 め組JAPAN発足
- 3月16日 め組JAPAN先発隊が宮城県石巻市に到着し物資配給や炊き出し、泥出し、クルー（ボランティア）の受け入れなどの支援活動を順次開始
- 3月20日 石巻災害復興支援協議会（旧：石巻支援連絡会）に加入
- 5月 希望の種まきイベント「SEED'S OF HOPE」を開催
- 6月 子供達への支援や仮設住宅の訪問など、寄り添い活動開始
- 7月 被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺パケーション」を開催
- 2012年3月11日 追悼式典「祈りの灯り希望の灯り」、尾崎の慰霊祭の運営サポート
- 4月 南浜ひまわりプロジェクト開始
- 10月 おだってばりいで、開業届提出
- 12月 全国、世界各地から届いた795枚のクリスマスカードを仮設住宅、在宅の方々へお届け
- 2013年3月 め組JAPANの仲間達が子供支援団体「NPO法人こども∞(無限)感ばにー」を発足
- 4月 活動の中心を寄り添い支援と、WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL との共同企画「希望の森もり大作戦～東北植林編～」に移行（詳細は15ページを参照）
- 6～9月 西日本を中心にめ組JAPANが行ってきた復興支援の報告会ツアーを開催
- 2014年8月22日 め組JAPAN広島・広島たすけ隊発足
- 8月23日 ホームページでボランティアの募集・支援金の受付開始
- 8月25日 長期滞在ボランティアの受け入れ開始
- 8月30日 石巻よりめ組JAPANスタッフが広島入り
- 9月末まで上記活動を継続、広島たすけ隊へ引き継ぎ完了
- 2016年4月22日 め組JAPAN熊本 発足 一般社団法人チーム熊本のサポート開始
- 4月23日 ボランティアの受け入れ開始
- 4月24日 若葉小学校（避難所）のサポート開始（～8月26日）
- 4月28日 夢まくらプロジェクト開始
くまモンリュックに元気になるグッズ詰め込んで、子供たちに配布したり、次の災害に備えて200名分の食料が贈える「炊き出しセット」10台支援しました。
- 6月2日 引っ越し支援開始（～10月16日）
- 6月4日 くまモンカフェ 開始（避難所・～8月）
- 7月28日 くまモンカフェ 開始（仮設住宅）

関連団体

● 熊本地震で連携している団体 一般社団法人チーム熊本

● め組JAPANから自立した仲間達の活動

め組JAPAN宮城で長期に渡り活動してくれた仲間達3名で、2013年に子供支援の団体「こども∞(無限)感ばにー」を立ち上げ、今も継続して宮城県石巻市で子供の居場所・遊び場づくりの活動を続けています。

NPO法人 こども∞(無限)感ばにー : <http://codopany.org/>

イベント

夢まくらプロジェクト

震災直後に入った避難所では、毛布を敷いて毛布をかぶって寝て居る人がほとんどでした。

東日本大震災の時に、埼玉県 岩槻商業高校野球部の監督と部員が実際に呼びかけて、行った『夢枕』を参考にさせていただきました。

全国の支援者に枕の作成とメッセージを呼びかけ、自主的にお配りいただいた物を含め、2420個の夢まくらを避難所や仮設住宅に配ることができました。

くまモンリュックプロジェクト



自分と周りの方を元氣にするツールをいっぱい詰め込んだ『くまモンリュック』を、全国の皆さんに熊本のことをずっと思っていて欲しい！という想い込めて販売し、また、全国の皆さんから被災地の方々にプレゼントとしてお届けするプロジェクト。

多くの方々の想いが集まり、合計で636体を贈ることができました。



炊き出しセットのプレゼント企画

今回の震災でも集落が孤立し、なかなか救援の手が届かなかったこと受け、次に備えて一度に200名分の炊き出しが出来るセットを10組、公民館やコミュニティスペースに寄贈いたしました。

引っ越し支援

避難所から自宅に帰りたい！の声を聞くようになった6月2日に活動を開始しました。避難所から自宅の引っ越しや仮設住宅・みなし仮設住宅に引っ越しを希望する方のサポートを行い、避難所の閉鎖が落ち着いて来た10月末をもってめ組JAPANとしての活動終了しました。これまでに309件の引っ越しを行なった。



若葉小避難所のサポート活動

め組JAPANは熊本市東区にある若葉小避難所サポートを、4月28日から8月15日の避難所閉鎖までさせていただきました。

避難されている方々が慣れない避難所生活の中で「少しでも元気に少しでも明るい笑顔で新しい一歩を踏み出せるように」という思いを大切に、市民の方のニーズを感じながら、運営サポート・環境整備・他団体や個人からの支援物資やボランティア受け入れや調整を行い、また行政と市民の方との間で情報や思いが円滑に通じるように努めました。

め組が若葉小に入った当初は300名近くの方が体育館・校舎・校庭での車中で避難されていました。避難所運営のサポートに加え、まずは筆文字表札作成や元気が増える筆文字メッセージを飾り、柔らかい雰囲気作りをしました。特に子ども達書いたメッセージは見た人も書いた子ども達も心が元気になるものでした。

また、柔道整復師や似顔絵描きなど、ボランティアさんの特技を活かし一人一人に寄り添って活動をして来ました。

長引く避難所生活の中で住民さん同士のコミュニケーションが計れるように、カフェコーナーの設置や折り紙やミサンガ編み、男性が夢中になる将棋などを取り入れ、寄り添った活動を展開しました。また、避難して居る方が少しでも安心できるように、個々のニーズに添ったお手伝いをさせていただくことで、8月15日の閉鎖まで希望を持って避難していただくことに努めました。



避難所・仮設住宅のコミュニティ形成のお手伝い(くまモンcafe)

くまモンcaféは、避難所暮らしが1か月を過ぎた5月中旬頃より、一般財団法人わもん財団のサポートも頂きながら準備を始めました。

プライベートスペースが確保しづらいつつ日々の中で、何を話しても大丈夫な安心スペースをつくり《避難者さん同士のコミュニケーションをサポート》することを目的に、行政の方に開催許可を頂きながら準備を進めました。

楽しい雰囲気を感じてもらう為、熊本県民のアイドルである【くまモンの帽子・エプロン】を用意し、益城町と熊本市東区を中心に微笑みあふれる時間をイメージしてスタート。

避難所の時期を終えると、仮設団地の開設に合わせて仮設団地集会所での開催へ移行。住民さん同士が【顔、名前、部屋番】を知り、自分達で自治会運営が出来る様にサポートを行いました。折り紙・編み物などのレクリエーションを取り入れ《コミュニティ作りや互助支援を応援しよう》を目標に、益城町の7仮設団地にて定期開催を基本に活動しました。



避難所9会場・開催合計47回
仮設集会所7会場・開催合計98回
利用者述べ人数2,226人・
ボランティア述べ人数619人

め組JAPANスタッフの感想

若葉小避難所リーダー：小出 静



め組JAPANが避難所のサポート決める直前に熊本入りし、ボランティアとして活動を開始しその後リーダーとして活動して来ました。

「少しでも元気に少しでも明るい笑顔で新しい一歩を踏み出せるように」という思いで活動をしてきました。

その中で7月に体育館のスペースを半分学校へ返すことになり一人一人の要望を聞きながら、区画整理と住まいの作り直しをした際は、大変でしたがほとんどトラブルなくスムーズに行えました。この事はこれまでの全てのめ組ボランティアの心を込めた活動を認めていただけた賜物だと嬉しく感じました。

若葉小学校では最終的に延べ300名を超えるめ組ボランティア、その一人一人が心を尽くして活動してくれました。

壊れた家に取り残された大切なものを取り出した時に、「ほんとにありがとう・・・」と目を潤ませたおばあちゃんの笑顔。

「熊本へ来て活動させていただいてよかった」とボランティアさんが流す綺麗な涙。

「いろいろあったけど、あなた達ボランティアさんが居てくれたから、ほんとにほんとに楽しかったわ。ありがとう。」そういって手を握りハグをした温もり。

たくさんたくさん愛が動きました。

そのひとつひとつが宝物です。



くまモンカフェリーダー：廣畑 輝臣



(現在：現地リーダー)

私が熊本入りしたのは、6月1日。1ヶ月半経過しても地震が続いていたこと・解体や環境整備がなかなか進まず皆さんの倒壊した家の数々・マンホールが突起したままの凸凹な道路や傾いたままの電柱など、驚きの連続でした。

初めて目にする、避難所や仮設団地での生活。厳しい環境の中でも熊本の被災者さん達は皆さん明るく前向きで、一緒に楽しいお茶会の時間を過ごさせて頂いています。

避難所から仮設住宅集会所へお茶会の場を移行しましたが、当初の活動終了予定日の10月中旬では益城町の仮設団地完成率は約60%程度。多くの仮設でこれから自治会が立ち上がるという現状を知りました。そこで、活動の必要性を感じて現地リーダーとして活動を継続させていただいております。

貴重な体験ができる機会を、ありがとうございます。

全国のみなさん。まだまだ熊本ではボランティアが必要です。

体力に自信のない方でも参加できる仮設団地集会所で【くまモンcafé】。

みなさんのボランティア参加を、お待ちしております。



ツアーイベント活動報告

MAKE THE HEAVENでは、繋がりを大切にしながら、お互いを応援しあい、助け合い「いつの間にか誰かの力になっていた」そんな希望の物語を創り続けるために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を創っています。

2016年も、感動を共有し、新たな一歩を踏み出せるきっかけの場を創ることできました。

2016年のツアー・イベント活動実績

- 1月30日 カンボジアくっくま孤児院来日
天使が舞い降りるJAPAN TOUR Special in SAPPORO
- 4月11日～17日 「第15回中国内モンゴル植林ツアー」参加人数：19人
- 5月28日～29日 「第2回希望の森モリ植林ツアー」参加人数：62人
- 7月2日～3日 京都大作戦
- 7月30日～8月7日 「第26回カンボジアスタディツアー」参加人数：22人
- 8月8日～16日 「第8回カンボジアくっくまツアー」参加人数：22人
- 9月10日～15日 「第16回中国内モンゴル植林ツアー」参加人数：22人 中国：28人
- 9月17日 TEAM AHO できるかできないやるかやらへんか 参加人数：350人
- 10月1日～8日 「チリ・アタカマ砂漠レース」参加人数：12人
- 11月25日～29日 「第1回ビーチクリーンアップ・ワールドツアーin香港」参加人数：32名
- 12月23日～31日 「第27回カンボジアスタディツアー」参加人数：11人
- 12月29日～31日 MAKE THE HEAVEN年末合宿 in 淡路 参加人数：21人



サポートのお願い

～僕たちの活動を応援してください～

MAKE THE HEAVENは、“一人一人の存在が希望であり、それぞれの役割で誰かの力になれる”という思いを大事にしながら、様々な活動を通して、希望の物語を創り続けて、喜びあっていける世界を創って行きます。

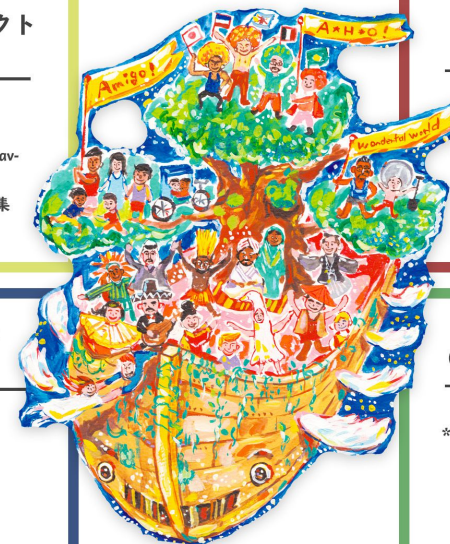
あなたの大切なお寄付が、地球に緑と笑顔を増やしていることを共有しながらみんなで喜び合える世界を創って行きます。僕たちの活動を一緒に応援してください！

感動共有プロジェクト (アミーゴ大作戦)

- ①継続的なご支援
*MAKE THE HEAVENの
会員となります
<https://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tmo=341>
- ②単発チャレンジの際に募集
<http://masaad35.wix-site.com/team-aho>

挑戦プロジェクト (TEAM A☆H☆O)

- ①継続的なご支援
*MAKE THE HEAVENの
会員となります
<https://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tmo=341>
- ②単発チャレンジの際に募集
<http://masaad35.wixsite.com/team-aho>



緊急支援及び復興支援 (め組JAPAN)

- 活動の際に募集
*2017年9月まで熊本地震災害
支援を行なっています
http://maketheheaven.com/megumijapan/?page_id=16

間伐プロジェクト (Wonderful 植林 Festival)

- ①継続的なご支援
*MAKE THE HEAVENの会員となります
- ②一円募金 *随時募集
<http://www.make-the-heaven.com/blank-5>
- ③MY TREE *随時募集

団体運営へのご支援

継続的なご支援 (MAKE THE HEAVEN会員となります)

- ① マンスリー
・毎月 1口 1000円 (何口でもお選び頂けます)
・銀行口座引き落とし or クレジット決済
- ② 年間
10,000円コース / 30,000円コース
100,000円コース / 300,000円コース
500,000円コース

- ☆会員特典☆
・ニュースレターをお届けします (不定期)
・各種主催イベントやツアーご優待
・FACEBOOK会員専用ページにご参加
<http://www.make-the-heaven.com/blank-9>

単発的なご支援

- ・好きな額でご支援
- ・銀行口座へのお振込み
or
クレジット決済

<http://www.make-the-heaven.com/blank-9>